# with コロナ・アフターコロナのよりよい地域連携の探究

## ～こ：困難（こんなん）な状況を ほ：微笑（ほほえ）みながら く：工夫（くふう）していく取組（アクション）＝こほくアクション＝～

## 1　目的

・新型コロナウイルス感染拡大防止による活動制限下でもよりよい地域連携を探究していく。

## 2　成果（生徒の変容等）

### （1）普通科園芸班　近隣小学校の植栽管理とＳＤＧｓの取組の模索

昨年に引き続き、近隣の我孫子市立湖北小学校に出向いての花壇の植栽管理を行っている。相手校からは大変喜ばれており、その期待に応えるように生徒も意欲的に活動している。

環境教育の新しい試みとして、アクアポニックス（魚と養殖と水耕栽培を組み合わせたシステム）の取組を模索している。次世代の環境保全型農業でもあり、ＳＤＧｓの実践ともなりうる。この取組は県内どこの特別支援学校も行っていない。安定した取組になれば、近隣の小中学校へも発信でき、お互いに学び合う関係が構築できる可能性がある取組である。

内容的には、水槽内で魚を飼育と水耕栽培とで共生環境を形成するものである。

### （2）専門学科（流通サービス科）による外部へのサービス提供

1）流通・メンテナンスコース

印西市役所、白井市役所から職員用名刺の作成を受注している。印西市役所からは新聞紙のリサイクルによるエコバックの製作を委託されている。専門実習の一環として外部からの受注作業に取り組んでいる。適度な緊張感をもちながら出来栄えを意識する姿勢や責任感の涵養につながっている。エコバックを市民へ配布する際には、作成：湖北特別支援学校流通サービス科事務班と明記されており、自分たちの取組が役になっていることが働く意欲を醸成している。

2）食品・サービスコース

パンや菓子の製造と販売を行っている。製造部門と接客部門に分かれて１階に設置した工房と店舗で実習に取り組んでおり、近隣のみならず遠方からの来客も多い。緊急事態宣言下では店舗での販売を中止したが、保護者や職員からの注文販売を受けての実習を継続し、店舗販売再開に向けて、生徒自ら注文販売をＰＲするなど技術の維持向上に努めることができた。

制限下では、整理券を配付して、店舗入店人数を制限する。十分な感染症予防対策をして接客を行った。（基本的には店内に１人のみ入店。それ以外は外の整理券を持って待機する。一日の受け入れ人数も限定する）

（3）学校開放講座

夏季休業中に普通科木工班・縫製班主体での工作教室を実施した。近隣地域の小学生の親子を対象として、工作するだけでなく、特別支援学校の作業学習の障害特性に応じた手立てについても説明をして、ただの工作づくり講座にならないように工夫した。また、付き添いの保護者については、地域の関係者によるシトラスリボンの作成を行った。指導講師には、地域の前自治会長さんの奥様のお力をお借りして、実施することができた。これも地域とのつながりにより、実施が可能となった。

（4）特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ大会振興事業

７月２８日に１０００か所ミニ集会において、開かれた学校づくり委員会の委員および地域の方（湖北駅駅員様）などの参加によるボッチャ体験を行った。オリパラ教材を活用して、ボッチャについての説明を行い、実際に体験することで、パラスポーツの面白さ、楽しさを体験できる機会とした。

１１月１７日に地元我孫子市のラグビーチーム「ＮＥＣグリーンロケッツ東葛」の選手を招いて、実際のプレイや生徒の体験、選手の講話を予定している。地域のスポーツチームとの交流活動を通して、生徒が、より一層、地域に関心を持ち、スポーツを行う力、スポーツを応援する力を高めていく取組としたい。

コロナ禍のため、近隣小学校での出前講座などは実施できなかった。しかし、障害者スポーツの振興に拠点校として、パラスポーツ道具の貸出や出前講座などに積極的に取り組んでいきたい。

本年度は、東京オリンピック、パラリンピックが開催されて意識も高まった。その意識を一時的なものにするのではなく、今後にレガシーとして、地域の障害者スポーツの推進を図っていきたい。

３　準備・実施段階の工夫

（1）普通科園芸班　近隣小学校の植栽管理およびＳＤＧｓの取組の模索

近隣校との関係づくりを第一に考えた。小学生が校内の花壇を見つめて、心癒して、その花の管理は近くの特別支援学校の作業班が行っていることを知り、その存在についても理解することができた。それはよりよい両者の関係性の構築につながった。

（2）専門学科による外部へのサービス提供

１）流通・メンテナンスコース

企業活動同様に発注元（お客様）のオーダーに応え、お客様の満足を心掛けることで、校内だ

けで完結する実習では得ることが難しいリアルな緊張感と一層の達成感や成就感を得ることができた。

2）食品・サービスコース

感染症対策を講じた店舗運営は、食品加工においても、接客サービスにおいても、今までより、お客様の安全・安心を考えて実践しなければならなくなった。そのことが、今まで以上に相手を意識した学習活動となった。それは、食品加工の製品の質の向上、接客サービスのおもてなしの向上につながった。

**（3）学校開放講座**

参加して小学生の声には「製品づくりが楽しかった」との声があり、好評であった。この講座のことを参加者には「最低３人以上にはお話してください」としたため、家庭、学校、身近な人にこの講座について話をしてくれたはずである。一緒に参加した保護者においては、自分のお子さんの製作している姿を見るのはもちろんであるが、シトラスリボンづくりという別の体験活動を用意したことで、親子ともども体験的な活動ができた講座となった。

**（4）特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ大会振興事業**

ボッチャ体験講座において、視覚教材を用意して、誰もが簡単にボッチャのルールを理解できるように視覚的に提示することを心がけた。そのおかげで、すんなり内容を理解することができ、大人でも楽しめるよき時間になった。

**４　広報・報道実績**

学校ホームページの校長日誌にて、記事として掲載。

**５　取組への反響（生徒の声等）**

・専門実習に身に付けた技術を外部での清掃活動で発揮したい。

・メンテンナンス班での洗車の活動について、校内で洗車の技術を磨き、早く市役所の公用車の洗車をして、地域に貢献できるようにしたい。（近隣市役所の公用車を洗車することは決まっている）

・コロナ禍で外部の方と接することができないため、校内の HIBIRI スペースを活用した教員に対する無料コーヒー提供の学習の場で、おもてなしの心や所作をさらに高めていきたい。

・市役所の外注作業を納品することにより、地域に貢献していることが実感できる。

・外部からの来校者は「床が光っている。清掃業者が入っていると思ったら、本校のメンテナンスコースの清掃と聞いて技術が高い」という誉め言葉が励みになっている。

## ６　今後の方向性

・アフターコロナを意識した地域とともにお互いにwin-winの関係にある教育活動をさらに拡充していきたい。

・普通科園芸班でアクアポニックスに取り組み、魚の養殖、植物の栽培の循環システムを設置して、環境についても考え、その取組を地域に広めることにより、地域交流を図っていきたい。

・アクアポニックスの取組は、ＳＤＧｓの取組の１つとして実践できるものであり、活動や内容を充実して、地域に発信していきたい。（現在、県内の特別支援学校で取り組んでいるところはない）

・アフターコロナの食品コースの在り方を考え、感染症対策を意識した製造活動、接客活動を見直し、実践していく。生徒と一緒に、困難な状況を、微笑みながら、工夫した取組を考えていきたい。

店人数を制限した販売活動

【流通サービス科（食品）】

アクアポニックス水槽　試行

【普通科（園芸班）】

校内カフェで「おもてなし」を磨く

【流通サービス科（サービス）】

洗車技術を高め、外部受注に備える

【流通サービス科　（メンテナンス）】

近隣の小学校の昇降口前の花壇整備

【普通科　（園芸班）】

学校開放講座　シトラスリボンづくり

【参加児童の保護者対象：地域人材の活用】